

生野中学校区 学校適正配置検討会議
校章・校歌専門部会（第1回） 会議録

1 日 時 令和2年9月23日（水） 午後7時00分から

2 場 所 生野区役所5階 502会議室

3 出席者

（校章・校歌専門部会メンバー）

浮田 和之委員、古瀬 浩久委員、吉田 貴司委員

（教育委員会事務局）

花月 良祐（総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長）、川楠 政宏（地域活性化担当課長代理兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長代理）竹口 一吉（学事課担当係長）、竹中 一郎（地域まちづくり課担当係長兼教育委員会事務局総務部教育政策課担当係長）、白石 秀一（生野区役所地域まちづくり課係員兼教育委員会事務局総務部教育政策課係員）、西川 明宏（生野区役所地域まちづくり課係員兼教育委員会事務局総務部教育政策課係員）

（傍聴）0名

4 議題

・校章・校歌専門部会における進め方について意見交換する。

5 議事要旨

（1）行政からの説明

【部会長について】

（竹中地域まちづくり課担当係長兼教育委員会事務局総務部教育政策課担当係長）

- ・会議の円滑な進行等を図るため、進行役、また取りまとめ役として、本部会の部会長を指名したい。
- ・昨年度までの学校設置協議会において、立ち上げ当初から委員としてご参加いただいた浮田委員にお願いしたい。
→浮田委員より、実際に学校に通う児童生徒の保護者である現役の方々が部会長となり、検討会議での報告等した方が良いのではないか、との提案があり、出席委員の合意の下、吉田委員が座長に就任した。

【校章の進め方について】

（竹口学事課担当係長）

（議事資料に沿って説明）

- ・ここで提案するのは、あくまでたたき台であるため、意見交換の中で変更点等を伺いたい。
- ・本日は9月23日であり、今後の進め方についての意見交換を行う。次回、検討会議が9月30日に開催されるため、そこでこの部会で決めた進め方について報告します。
- ・続いて、10月に開催する第2回の専門部会において、行政側から複数の校章案を提案する予定である。その校章案について意見交換をお願いしたい。ご意見いただきながら校章案を絞り込んでいきたい。
- ・それら絞り込んだ校章案を10月下旬の検討会議において提示し、また意見交換を行いた

い。

- ・11月には絞り込んだ校章案候補を児童・生徒を対象に投票を行う。児童・生徒の投票結果を参考にし、専門部会において校章選定に向けて意見交換を行う。その専門部会の意見交換の結果は、改めて検討会議へ報告し、意見交換の上、最終的に校章を決定していきたい。
- ・校章の決定時期は、標準服のエンブレムなどにも影響があるため、予定しているスケジュールであれば年内に決定できると考える。
- ・今回提示した進め方の案は、あくまでこれまでの事例を参考にしながら作成しているため、本日の意見交換で進め方が変わることは問題ない。

【校歌の進め方について】

(議事資料に沿って説明)

- ・先ほどの校章の進め方と同様に、これまでの学校再編の進め方を参考に作成しているため、本日の意見交換の中で、進め方を変えていくことに問題はない。
- ・本日9月23日は、この進め方について意見交換を行い、9月30日の検討会議にて部会の進め方を報告する。
- ・10月の専門の部会において、今後校歌、特に歌詞の方、イメージについて意見交換をし、その中でイメージ、生野区の街の雰囲気、何かフレーズを入れたほうがよいなど、そういったイメージを意見交換し、児童・生徒を対象に歌詞のフレーズを募集する、募集用紙などを提案し、内容を確認いただきたい。10月の終わりに、それらの意見交換の内容というものを検討会議において報告する。
- ・11月から12月の間、児童・生徒を対象に、歌詞に入りたいフレーズを募集する。
- ・1月には専門部会において、フレーズの募集結果を提示し、ある程度フレーズを絞り込みたい。1月の検討会議で、専門部会の選定結果、絞り込んだ内容について意見交換する。
- ・2月、3月は大阪市の教員、校歌などを作曲してもらえるところもあるため、校歌の歌詞・フレーズ等の情報を提供し、作詞・作曲の原案の作成を依頼する。
- ・4月に専門部会において、校歌の原案ができれば報告し、それについて意見交換、4月の検討会議でその結果を報告します。
- ・5月から10月、それらの校歌の原案ごとに学校指導、学校の中で児童・生徒の協力を得ながら、最終的に校歌を完成させていく。
- ・11月の専門部会において完成した校歌を示し、意見交換をする。11月の終わりの検討会議で、最終的に完成した校歌を披露し、決定していきたいと考える。
- ・本日の意見交換で、いろいろな方法があると思うので、意見をいただきたい。

(2) 意見等の概要

【部会長について】

(委員)

- ・反対したい。
- ・部会長を務めることは嫌ではないが、自分たちはもう子育て終わっている。これからは現役の方にどんどん前に出てほしい。

(委員)

- ・やりたい気持ちはあるが、仕事の関係で遅れる場合が多々ある。もし自分が進行役となれ

ば物理的に部会へ迷惑をかけてしまう。

- ・ご経験のある浮田委員、古瀬委員に務めていただく方がよいのでは。

(委員)

- ・古瀬委員については西生野小学校区として森委員や大西委員が座長や校名専門部会長を務めている。他の小学校区から出した方がよいと思う。
- ・部会長はこの専門部会の結果を本会議で報告する。その役目は現役の吉田委員がよいと思う。仕事で遅れるとしても、報告のタイミングを後にずらせばよいだけ。

(委員)

- ・それであれば。

(委員)

- ・それでいこう。

(川楠地域活性化担当課長代理兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長代理)

- ・検討会議での部会の報告は進行に応じて順番は変えることもできる。もし、大幅に遅れる可能性があるならば、部会長の代理として発言してもらう方を最初から決めておくことも可能。

(委員)

- ・承知した。

(川楠地域活性化担当課長代理兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長代理)

- ・吉田委員のやりやすいように考えていただいて結構。

(委員)

- ・それであれば、ここで部会長をさせていただく。もし自分が出席できない場合などは浮田委員もしくは古瀬委員に代わりをお願いしたい。

(委員)

- ・協力する。

(委員)

- ・それであれば、お受けする。

【校章の進め方について】

(委員)

- ・複数候補の提示、この校章案はどのような形で提示されるのか。

(竹口学事課担当係長)

- ・行政案のことか。

(委員)

- ・そもそも行政案なのか、参考に書いてあるような募集するのか、その辺はどうなのか。

(竹口学事課担当係長)

- ・現時点では、行政案として提示することを考えている。

(委員)

- ・行政案として、すでにデザインしたものがあるのか。

(委員)

- ・あれば見せてほしい。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・大池小学校の場合は5案提示し、子どもたちにアンケートを行った。
- ・桃谷中学校では、生徒からデザインを募集した。

(委員)

- ・それは中学生だから募集できたということか。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・そうですね。

(委員)

- ・案を募集したということか。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・大池小学校と桃谷中学校はそういった流れであった。

(委員)

- ・この行政案は、どこかの先生に見てもらったのか。もしくは案を出してもらったのか。この案は誰が考えたのか。

(竹口学事課担当係長)

- ・教育委員会の職員が考えたものである。

(委員)

- ・教育委員会のこういった人物なのか。美術に長けている人材がいるのか。

(竹口学事課担当係長)

- ・いえ、我々のような通常の職員です。案を出し合いながら、こういったものが良いのではと考えながら作成した。

(委員)

- ・行政案の最初の3つほど、「生野」の「イ」が使用されている。

(竹口学事課担当係長)

- ・画期的であったため。

(川楠地域活性化担当課長代理兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長代理)

- ・インパクトはある。これだけで「生野」が表されている。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・生野中学のように星型が多い。林寺小学校の桜型というのも割と多いパターンである。

(竹口学事課担当係長)

- ・順次作成しており、次回の専門部会でお示ししようと考えている。

(竹口学事課担当係長)

- ・ご意見頂戴できれば、追加作成していきたい。

(委員)

- ・校名案を決めるとき、「四つ葉」があったかと、4つの小学校が一体となって義務教育学校になるという。四つ葉が校章のイメージといった部分があったと思う。学校名が「生野未来学園」であるが、「四つ葉」を使用した校章でも問題ないのでは。例えば7番。

(竹口学事課担当係長)

- ・これはアジサイ、生野区の花をかたどっている。

(委員)

- 例えばこれが、四つ葉のクローバーであってもよいかな。

(竹口学事課担当係長)

- 4つの校が集まるというイメージで四つ葉のクローバーとした、そういう意味づけがあれば良いかと。

(委員)

- 基本的には4つではないが。

(委員)

- 生野中学校を入れて5つである。

(委員)

- その辺りもどうするか考える必要がある。

(竹口学事課担当係長)

- 3番は5つの学校を表現したもの。

(委員)

- 生野中学校と生野小学校の校章を合体させただけ。

(竹口学事課担当係長)

- おっしゃるとおり。これを5つの葉っぱや4つの葉っぱでデザインすることも可能。

(委員)

- それもよい。

(委員)

- 四つ葉の案も作ってほしい。

(竹口学事課担当係長)

- 承知した。

(委員)

- お願いしたい。

(竹口学事課担当係長)

- 四つ葉の案も作成してみる。

(委員)

- 四つ葉をイメージとして、真ん中に学校名が入るなど。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- 学校名もあるが、「小」や「中」なども多く、学校名をストレートに書かないパターン。義務教育学校は大阪市初であるため、義務の「義」もよいかもしれない。

(委員)

- 校章に校名をここまで長く入れるのはよくないのでは。

(委員)

- 長過ぎると、エンブレムの大きさによっては難しいかもしれない。

(委員)

- 例えば、「イ」が9個で生野を表されている。真ん中にさっき意見として出た義務教育学校の「義」が入ってもよいと思う。

(委員)

- ・「義」もよい、以前に区長が言っていた「未来」もよいかと。

(委員)

- ・アンケートをとるのか。子どもたちに何か提出させるのか。

(竹口学事課担当係長)

- ・新しい学校の校章デザインを子どもたちに募集することは現時点では考えていない。子どもたちに携わってもらい、「こういった感じの校章がある」と投げかけ、その中で何がいかと聞いてみるのはどうかと考えている。

(委員)

- ・自分としては、子どもたちに聞くのはあまりよく思わない。スピード感持って進めていかなければいけないだろう。

(竹口学事課担当係長)

- ・おっしゃるとおり。

(委員)

- ・5番の意味がわからない。アルファベットの「C」に見えるが。周りのギザギザは生野の「イ」をかたどっているのか。

(竹口学事課担当係長)

- ・書いているとおり、これから新しい学校がつながっていくというイメージで円があって、それを確実にゆっくりと進めるための歯車のようなイメージ。あえてつなげていないというのは、これからつながっていくというイメージです。

(委員)

- ・難しい。説明を見ずとも「あっ」と思うような校章にすべき。
- ・3番がやっぱり一番しっくりくるかと。

(委員)

- ・1、2、3 やったら、3 が一番わかりやすい。

(委員)

- ・みんなが書ける。子どもが大人になっても。

(委員)

- ・10番はカラーか。

(竹口学事課担当係長)

- ・そのとおり。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・赤、黄、青、緑、あともう1色は何か？

(竹口学事課担当係長)

- ・4色。

(委員)

- ・中学校と小学校に、現役の美術関係の先生がいるだろう。そういった先生方に1度聞いてほしい、どんなイメージを持っているのかを。

(竹口学事課担当係長)

・承知した。

(委員)

・美術関係に携わっているのだから、何かアイデアみたいなのがあれば。強制でなくてよい。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

・4小1中の先生に、案があれば出してほしいと依頼してみる。

・そうすると、20個ほどの校章案になるかもしれない。

(委員)

・20個もいない。

(委員)

・10個ぐらいでよいかと。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

・このメンバーで決めるのか。

(委員)

・専門部会のメンバーである程度絞ってからアンケートをとる、ということか。

(竹口学事課担当係長)

・そのとおり。子どもたちにアンケートをとる方法、または検討会議の場でアンケートすることも方法である。いろいろな方法がある。

(委員)

・制服も関係するだろう。ブレザーなら刺繍のようなものも必要だろう。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

・ブレザーであればワッペンのようなものにしてみたり、詰め襟であれば、小さいポイントみたいなものなるかと。

(委員)

・それならある程度、校章と標準服は連携とる必要があるだろう。

(委員)

・制服は、2月頃だったか。

(竹口学事課担当係長)

・専門部会の中で大まかなデザインを決めていくのが年内を予定している。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

・学校によっては、ブレザーのエンブレムと校章を別の物を使用している学校もある。

(委員)

・小学生と中学生が、同じ形になるのかということも決まっていないのだろう。

(竹口学事課担当係長)

・まだである。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

・標準服も決め方、進め方を議論した。

(竹口学事課担当係長)

・当面の進め方を議論した。年内には、専門部会の中でおおよその形について意見交換をしながらつくり上げていきたいと考える。

(委員)

- ・胸にエンブレムや校章、もしブレザーなら付けるのかと思った。校章のイメージで、ブレザーならこういう感じで、といったイメージも作り手で出てくるだろう。

(委員)

- ・やはりどちらでもいける方がよいのか。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・校章がブレザーのマークになっているほうが少ないような印象がある。

(委員)

- ・少ないのか。

(川楠地域活性化担当課長代理兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長代理)

- ・エンブレムは別のものというイメージです。もしくはついていない。

(委員)

- ・校章、ブレザーであればどこにつける、などがあるのか。あと帽子についても。

(委員)

- ・バッジのようなものをつけるような場合もあるかと。

(竹口学事課担当係長)

- ・ただ、最近はこの学校ということをつかれないようにすることが多い。

(委員)

- ・確かに。

(委員)

- ・そういうのもありかと。

(委員)

- ・ありだろう。裏生地にも全部入れるとか。
- ・校章はある程度決めないと、旗なども作る必要があるだろう。

(竹口学事課担当係長)

- ・そのとおり。

(委員)

- ・校旗とか、応援団旗みたいなものも、

(竹口学事課担当係長)

- ・そうすると、次の3月末までには確実に決めておいたほうが良いと思います。

(委員)

- ・3月でもいいのか。最初の話では一応年内を予定していると。

(竹口学事課担当係長)

- ・この進め方でいけば、年内で収まるだろうと考えている、ただ、先ほどの意見のように校旗、その他いろいろなものを作っていくのであれば、3月末までにでき上がっていれば、学校側はすごく助かるかと。

(委員)

- ・予算的には、行政が全部出すことになるか。

(竹口学事課担当係長)

・校旗のことか。

(委員)

・校旗とか。

(竹口学事課担当係長)

・そうなる。

(委員)

・それと、上に掲げるようなもの、大きな旗のようなもの。

(川楠地域活性化担当課長代理兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長代理)

・学校の旗のことか。

(委員)

・学校の旗と、掲げるようなものがあつたろう。

(川楠地域活性化担当課長代理兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長代理)

・掲揚するときの。

(委員)

・そう、掲揚するときの旗。弔旗のようなものについても、すべて行政で作ってくれるのか。

・弔旗のほかにもたくさんある。これまではそれぞれ OB 会でしていたが、新しい学校はどうなるか。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

・緞帳なども。

(委員)

・そういったものも含めて。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

・寄贈とか。

(委員)

・それはすべて行政側か。

(竹口学事課担当係長)

・緞帳なども、学校を再編することで変わるので、恐らく、我々で用意することになる。

(委員)

・応援団の団旗、そういったものも含めて。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

・そういったものもあるのか。

(委員)

・自分の小学校には全てある。それが全て使えなくなる。

(竹口学事課担当係長)

・学校でそれは使うと我々に言ってもらえれば、我々で用意する。

(委員)

・自分たちの小学校であれば、応援団旗に大きく、6 畳から 8 畳ぐらいの大きさに鳳凰もあり、「生野小学校施設開放のクラブ」のような感じで書かれている。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・学校の持ち物かどうかで少し考え方が変わってくるかと。

(委員)

- ・全員が使うもの。そこまでやってもらわないと、施設開放もどうなるかわからないのだろう。
- ・校章も全部入っている。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・川楠課長代理、施設開放はどうなっていたか。
- (川楠地域活性化担当課長代理兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長代理)
- ・確認する。

(委員)

- ・施設開放は、学校に対して1つしかない。
- (川楠地域活性化担当課長代理兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長代理)
- ・最終的に1学校に対して1つになると考えている。ただ、活動場所をどうするかなど、課題はまだ残っている。

(委員)

- ・活動場所というよりも、それに対する校章があるだろう。各クラブ、みんな校章を入れている。それまで行政の負担とは言わないが、校章を早めに決め、次のステップに行かないと周囲が困る。
- ・自分は、校章も大事だが、校歌のほうが大変だと思う。

(委員)

- ・それはまた校歌のときに。
- ・まず、校章の話の先に終わらせよう。

(竹口学事課担当係長)

- ・今のところは、まず次の部会は10月の専門部会までに学校の先生にイメージを聞いてみて、それらを形づくったもの、校章のほうをデザインしたものというのを皆さんにまたお示しのほうをさせていただく。

(委員)

- ・次回、学校の先生の意見も取り入れた校章案が提示され、そこで何案かに絞り込み、生徒対象にアンケートをとるという流れでよいか。

(竹口学事課担当係長)

- ・そのとおり。このアンケートをとるのか、そのままでいいのかどうかということも決めたい。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・浮田委員より、子どもたちにアンケートをとるのがいいのかどうかという投げかけもいただいている。今日か次回にでも決めたい。

(委員)

- ・今日決めることができる。

(委員)

- ・そこについては今日決めても問題ないと思うが、お二方は、アンケートを生徒対象に行う

ことはいかがか。

(委員)

- ・生徒の意見聞くのはいいと思う。自分らが行くことになる学校だから。
- ・こちらである程度絞ってから。

(委員)

- ・こちらである程度絞っておいて、その中から子どもたちに選んでもらう。流れは学校の校名と一緒に。その形でよいか。

(委員)

- ・個人的な意見としては、子どもたちに聞くというよりも、保護者に聞いてもらったほうがいいと思う。意識づけができる。「今度新しい、こんな学校になるんだ」といった思いに対する校章。「これがいいかな」となる方がよい。大人がわかってないと、子どもに対し説明できない。

(委員)

- ・「どういう意味か」と聞かれたときに、誰も答えることができない。

(委員)

- ・学校名のときもそういうご意見があった。

(委員)

- ・保護者たちが、この学校の校章はこういう意味があるんだということを子どもたちにしっかり説明できる校章であってほしい、そういった地域であってほしいと思う。

(竹口学事課担当係長)

- ・学校より児童生徒を通じて、保護者の方に、一緒にご家庭でアンケートを書いてもらい、学校で回収をする。そうすれば、保護者の方にも届くかと。

(委員)

- ・保護者宛てのアンケートにし、自宅で一緒にみてもらう。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・子どもと一緒に。

(委員)

- ・一緒に考えてもらう、話し合ったりするのもよい。

(委員)

- ・自分もそう思う。よいと思う。

(委員)

- ・校章、おそらく卒業生はわかっているだろうけれども、やっぱり保護者がまじまじと見ることはないかと。
- ・引っ越ししてきた人が、小学校の緞帳をみて「あっ」と思ったらしい。「イ」が9個の生野小学校であることに。気づいてもらえるようなものであれば、子どもたちにも「行っている学校はこうなんだ」ということを伝えることができる保護者になってほしい。
- ・だから、保護者に向けてアンケートしてもらうのが一番いいと思う。

(竹口学事課担当係長)

- ・ご家庭で話をしながらアンケートをしてもらう。それを回収、またこの場でその結果を報

告し、その結果を参考としながら、最終的に専門部会としての校章というのを決めていこうといった流れのほうでよろしいか

(委員)

- ・そうですね。次の校章の部会がまた 10 月にある。それまでの間に学校の先生の見も盛り込んで、それを次回 10 月に確認、部会で案を絞って、それをその次 11 月の部会までには保護者向けにアンケートを出し、回収ができ、報告できる形に持っていけたらと。

(竹口学事課担当係長)

- ・わかりました。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・今回の専門部会では、アンケートのひな型みたいなものを準備する。

(竹口学事課担当係長)

- ・アンケートでの聞き方を提案する。アンケートでの聞き方も、事前に、校長先生とも話をしながら作成する。
- ・校章については、次回、こちらでアンケート用紙、進め方を整理した上で、また提示する。

【校歌の進め方について】

(委員)

- ・なにかボヤッとしている。イメージをどう考えるか、なかなか難しい。

(委員)

- ・大池小学校の歌詞はできているのか。

(竹口学事課担当係長)

- ・大池小学校では、歌詞のフレーズだけでなく、歌詞全体を公募した。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・17 作品の応募があった。

(委員)

- ・歌詞の公募で「学校再編したことを後世に伝えることができる歌詞」とあるが、これはどういうイメージか。御幸森小学校と中川小学校のことだろう。
- ・この名前が入っているのか。

(竹口学事課担当係長)

- ・名前が入っているものもあり、全く入っていないものもあった。17 作品を委員皆さまに見ていただき、絞り込みを行った。

(委員)

- ・再編したことを後世に伝えることができる歌詞とはどういうことか。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・例えば、3 つが 1 つに、などそういったフレーズが入っているということだったかと。

(竹口学事課担当係長)

- ・そのとおり。

(川楠地域活性化担当課長代理兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長代理)

- ・会議の場面で投票により順位をつけ、3 つまで絞った。あとフラットに考えるということで、次の会議で。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・浮田委員の意見は、学校再編したことが後世に伝わるができるというのはどんなフレーズだったのかということ。

(委員)

- ・校歌は非常に難しい。難しい言葉がここに書いてあるけれども、言葉遣いがいいのか。難しい言葉遣いというのはなにか。

(委員)

- ・例えば校歌、歌は1番なら1番全部を募集する、といったものか。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・3番まで募集します。

(委員)

- ・全部募集か。特定の単語とかではなく、歌詞全体を出してください、ということか。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・この大池小学校のときはそうした。今示しているスキームとは少し異なるが。

(竹口学事課担当係長)

- ・歌詞のフレーズを児童・生徒から募集してはどうかと。それをもとに作曲。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・作詞する人が作り込んでいくというスキームです。

(委員)

- ・それは、自分が最初に言ったフレーズ、単語などを取り入れて歌詞を成立させるという、そういうスタンスか。

(竹口学事課担当係長)

- ・そのとおり。

(委員)

- ・今回はそれをするということも考えているのか。

(竹口学事課担当係長)

- ・そのとおり。そういった案は。

(委員)

- ・そういった方法と、歌詞全部募集するかということも。

(竹口学事課担当係長)

- ・ある。

(委員)

- ・考えているということか。

(委員)

- ・でも、9年制のため、全部同じ歌を歌う必要があるだろう。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・他校の校長先生が、校歌を教える際に「こういう意味、この校歌の意味はこういうことだ」というものがわかりやすいキーワードが小学校にはよい」ということ言っていた。

(委員)

- ・しかし、中学生はそれを歌えないのでは。9年生が全員で歌うものを作るのだろう。小学1年生から中学3年までが同じ歌詞を歌う。曲は後でもいいかもしれないが、その歌詞。
- ・すごく大変だと思う、9年制というのは。まして、学校名は長い。
- ・自分がとりあえず今、生野中学校区のブラバンのOBの子らにも一応打診はしている。
(委員)
- ・それは歌詞ですか。
(委員)
- ・歌詞と、全部できるかということか。
(委員)
- ・曲ですか。
(委員)
- ・答えは出ていないが「新しい学校になるのだから、自分たちの卒業した学校だから」と伝えた。コロナで止まっているが、定期的な演奏会もやっているようだ。音楽に携わっているのだから、一度考えてみてほしいというような話をした。答えはまだ出ていない。
- ・あと、生野中学校区が全国大会に出場した際の梅田先生など。大阪桐蔭でやっている。こちらに来てくれている。梅田先生であれば有名だし、言ってみるのも。
- ・舍利寺地域にいたと思うが、シンガーソングライターのような人が。
- ・子どもたちに作詞を依頼するのは無理だと思う。
(委員)
- ・やはり難しいか。
(委員)
- ・9年制は無理だと思う。生野中学校の校歌をそのまま使用することもいいかもしれない。そういうのもありなのか。全部新しくするのか。
(竹口学事課担当係長)
- ・実際に、中学校の校歌を名称だけ変えて小学校で歌うとしているところもある。
(委員)
- ・歌詞が難しい。
(竹口学事課担当係長)
- ・そこでも歌詞が難しいという話は出ていたが、「君が代」も難しいのでと。いろいろな学校で歌う歌は、子どもたちにとって結構難しい歌詞なので、いいんじゃないとかという意見があった。
(委員)
- ・難しい歌詞というのは勉強すればいいだけ。
(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)
- ・おっしゃるとおり。そこを先生が、学校側が子どもたちに教える。
(委員)
- ・公募して、中身をみて、これというものがなければ、生野中学校の校歌を使用することもありだと自分は思う。

(竹口学事課担当係長)

- ・公募する場合でも、あくまでも「参考」とするということでよいか。
- ・大池小学校は、原案と変わる場合がある前提で進めていたか。

(竹中地域まちづくり課担当係長兼教育委員会事務局総務部教育政策課担当係長)

- ・歌詞の一部の変更をお願いすることがあるとしていた。

(川楠地域活性化担当課長代理兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長代理)

- ・採用されないこともあることなども想定し、注釈などをきっちり書いておくべきだろう。

(委員)

- ・誰か探してみるのは。各学校に打診し、OB でそういう音楽関係の人がいるか。音楽に関係する人にやってもらいたい。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・現在、案として出てきているのは、「校歌に盛り込むフレーズだけを募集する」「歌詞そのものを丸ごと依頼するか」「今の生野中学校の歌詞を採用」といったところか。

(委員)

- ・生野中学校の歌詞を少しアレンジというか、新しい学校用に少し作り変えて、といったような。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・スケジュール的には余裕はあるのか。

(竹口学事課担当係長)

- ・余裕はある。大丈夫。

(委員)

- ・生野中学校の校歌については最終手段では。その他の方法がうまくいかないときなど。やはり、できれば新しいほうがよい。
- ・とりあえず自分は、ブラスバンド部の方と、あと、梅田先生にも連絡しようか。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・作詞と作曲セットをお願いするのか。

(委員)

- ・まだわからない。梅田先生がどこまでできるか。作曲だけはするよと言うかもしれない。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・作詞だけは任せてという人もいるだろう。
- ・本日いろいろな意見があったが、今日全ての進め方を決める必要はないスケジュールである。

(委員)

- ・あと 1 年ぐらいのスケジュールであろう。

(竹口学事課担当係長)

- ・そのとおり。

(竹口学事課担当係長)

- ・当面の間の進め方ぐらいだけ、次回まで何しようとか、そういったところが決まれば大丈夫。

(委員)

- ・それは要と思う。絶対。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・皆さんがどこかに当たっていただく、ということを今日は決めた。

(竹口学事課担当係長)

- ・それぞれの学校区で誰か依頼できる人がいるかどうかをピックアップする。

(委員)

- ・それぞれの学校の中で頼める人がいるかいないか、については来週の検討部会で。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・そこに絞らず、依頼できる人がいるかいないかではなく、フレーズだけを公募する、歌詞を公募する、なども。もしくは学校に誰か依頼できる人がいるのかということ。

(委員)

- ・来週の検討部会では、その３種類の動き、話をさしてもらえばよいということか。
- ・それとまた別動で、さきほど浮田委員からの意見で、生野中学校区のプラスバンドへ当たっている、これはその場で言う必要はないと思うが。
- ・表立って報告する部分は、「フレーズだけを募集する」「歌詞そのものを募集する」「学校を通じて依頼できる人がいるか」といったその３種類を話せばよいか。
- ・生野中学校の歌詞をもとにする件については、最終手段という位置づけのため、次回検討会議の報告には入れない。
- ・では、方向性だけ来週、とりあえず報告する。

(竹口学事課担当係長)

- ・次回検討会議の場では、専門部会において「フレーズを募集する」「歌詞そのものを公募する」「学校を通じてお願いできる方がいないかどうかということを検討」、それらについての報告をする。

(委員)

- ・そう。

(委員)

- ・本会議の中でも、誰か知り合いがいないか聞いてみては。

(委員)

- ・それもよい。学校を通じてという部分、校長先生も出席されるので、そのときに何か意見があれば。

(委員)

- ・校長先生から話を振るのはいい。

(委員)

- ・その場での意見でも、持ち帰ってからの意見でもよいかと。

(竹口学事課担当係長)

- ・その後の動きは、また次回の専門部会において検討するということで。

(委員)

- ・そう。

(竹口学事課担当係長)

- ・であれば、校歌は今の方向性を報告するという事で。
- ・校章については、行政と学校から案を出し、それを専門部会で絞り込みした上で、保護者向けにアンケートを行うといった進め方を報告していただくことでよいか。

(委員)

- ・問題ない。
- ・校歌のイメージについて、今回は触れないか。募集する校歌のイメージ。
- ・4 小学校が、さきほどの例ではないが、例えば 1 つになり、学校名を決める際、将来、この「未来」という単語が重要なキーワードになるという話だったと思う。その辺をイメージするなど、そういったところには今回は触れなくてもよいか。

(川楠地域活性化担当課長代理兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長代理)

- ・イメージを出すにしても、ベースになるようなものといった部分のことか。

(委員)

- ・そのとおり。イメージについて何かあるかを聞くとか。
- ・イメージというか、どちらかというと、要は学校の姿、理想、あるべき姿、など。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・参考資料のそれぞれの裏面の「その他」と書いている部分がある。

(委員)

- ・例えば「未来に夢が広がるような」など、そういったイメージはあると思う。
- ・「未来につながるイメージ」という表現で。来週の検討会議でそれで出してしまってもよいか。
- ・もちろんイメージがあるほうが、フレーズにしても、歌詞にしても、考えていけると思う。
- ・何も無いものに対してフレーズと言われても、結局、生野未来学園の「未来」や「生野」など、どこか地名が出たり、そういったことになると思う。それなら、ここにあるような「未来に子供たちの夢が広がるような」など、そういったイメージを提示する方が意見が出るのではないか。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・「1 年生から 9 年生がいる学校」など。

(委員)

- ・初めての義務教育学校なので「将来」「未来」があるような、そういう方向で持っていくのがよいかと。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・そのあたりを次回のこの専門部会で議論するといった形。皆さまには少し宿題のようになってしまうが。

(委員)

- ・では、来週は最初言ったような、方向性だけの話をして、次回はイメージについて意見交換をするといった流れにしよう。

(委員)

- ・例えば、ゴスペルのような、みんなが楽しく歌えるようなもの。今思いついたけど、全員が直立で校歌を歌うことがほとんどだが、1年生が入ったときに、上級生たちと一緒に手拍子しながら歌えるような校歌。新しい学校ならあってもよいかなと、そういった学校はないか。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・ないと思う。

(委員)

- ・そういった校歌があっても話題になると思う。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・作曲時、どんな調子で作曲してもらうか、にもよる。卒業式で歌うことも考慮する必要があるかと。

(委員)

- ・確かに。入学式はよいとしても。
- ・せっかく「未来」、「新しい学校」として進めるなら、当たり前のように校歌を気をつけて歌うのではなく、そういうのもありかと思った。あくまで自分の個人的な勝手な意見である。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・音楽に長けている先生もいる。そういった先生に一度「そういうのもあるか」と聞いてみる。

(委員)

- ・多分ないだろう。あってもおもしろいかと。
- ・しかし、校歌だけは忘ない。自分も小学校の校歌は今でも歌える。

(花月総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長)

- ・そうおっしゃる方は多い。

(委員)

- ・ゴスペルとは違うが、例えば輪唱のような、少し工夫がされた校歌もよいかもしれない

(委員)

- ・それもおもしろいと思う。同じ歌詞をただただ歌うのではない。

(委員)

- ・小学1年生、輪唱ぐらいならできるかもしれない。
- ・そういったものを作曲してくれてもおもしろいかもしれない。作曲はまだ先の話だと思うが。

【その他】

(竹中地域まちづくり課担当係長兼教育委員会事務局総務部教育政策課担当係長)

- ・最後に次回の日程を決めたい。
- ・1カ月後であれば19日の週となる。

(委員)

- ・本会議はいつだったか。

(竹中地域まちづくり課担当係長兼教育委員会事務局総務部教育政策課担当係長)

- ・ 4 週目のため、28 日の予定。部会はその前となる。

- ・ 21 日の水曜日でよいか。

(全委員)

- ・ 問題ない

(竹中地域まちづくり課担当係長兼教育委員会事務局総務部教育政策課担当係長)

- ・ 時間は、15 分ほど遅らせた方がよいか。

(委員)

- ・ それでよければ。

(竹中地域まちづくり課担当係長兼教育委員会事務局総務部教育政策課担当係長)

- ・ 次回日程は、10 月 21 日水曜日、19 時 15 分からとする。場所は本日と同じ場所を予定とする。

6 確認事項

- ・ 吉田委員が部会長を務めることとする。

- ・ 校章の進め方について、学校の意見も踏まえた行政案を提示し、次回の専門部会で絞り込みを行い、その後、児童生徒を通じて保護者を対象としたアンケートを実施する。そのアンケート結果を参考に校章を決めていく。

- ・ 校歌の進め方について、「フレーズを公募する」「歌詞全体を公募する」「学校等通じて作詞作曲可能な人に依頼する」という 3 種類の方向性を次回検討会議に報告し、意見交換を行う。

- ・ 次回の日程は 10 月 21 日（水）19 時 15 分からとする。

7 会議資料

レジュメ

議事資料 校章・校歌専門部会の進め方（案）

参考資料 1 ほかに学校再編の校章・校歌の進め方事例

参考資料 2 桃谷中学校 校歌の歌詞募集

参考資料 3 大池小学校 校歌の歌詞募集